**沢渡温泉**

鎌倉時代（1185–1333）、かつての幹線道路網が各地方と政権所在地であった鎌倉の町を結んでいました。沢渡はこの幹線道路網上にあった宿場町で、飛騨国と信州国（それぞれ現在の岐阜県と長野県）の国境に位置していました。

*オンセン*とは「温泉」を意味し、沢渡の温泉施設開発は1998年に北アルプスを貫く安房トンネルの工事がそれまで知られていなかった温泉の源泉を引き出したときから始まりました。そのお湯は透明で、かすかな硫黄の匂いがあり、山から湯船まで7キロメートルをパイプで下りながらも、70℃前後を保っています。

また、沢渡温泉は中部山岳国立公園への玄関口として機能する南東丘陵地帯にあり、その中心的な位置から上高地、乗鞍高原、白骨温泉、および奈川といった観光地の交通の要所にもなりました。多くの登山者はここから歩いて上高地エリアや北アルプスに向かいます。